

来館促進に向けた取組について

1 来館促進に向けて新たに設置する機能（未来・図書館管理運営方針から抜粋）

機能名称	機能概要
インデックス	・全館のインデックス（目次）として、日常やライフイベントに関するワードに合わせ、本やチラシ、模型、商品などの資料を展示し、目的とする情報へのアクセスを支援します。 ・自身のスマートフォン等を用い、キーワードごとの2次元コード等を読み取ることで、目的とする情報にアクセスすることができます。
ショーケース	・外側からも見え、中に入ることもできる本の展示コーナーです。 ・定期的にテーマを変え、未来・図書館の企画展示を実施するほか、あつぎ郷土博物館や庁内各課、市内企業、市内大学等と連携した企画展示を実施します。
ティーンズ ラウンジ	中高生世代から求められている居場所を確保するため、40人程度が利用できるスペースで、10代を中心とした青少年同士が気軽に集い、交流し、様々な活動ができる場とします。
デザインって 何？コーナー	・「デザイン」とは、目に見えるものだけではなく、行動変容を起こしていく仕組みや考え方のことです。 ・「人生を豊かにするためのデザインとは何か」をテーマとした企画展示を継続的に実施します。
たんきゅう キャンパス	・何かを調べたいが、調べ方がわからない利用者のために、情報を探す際の道案内となるパスファインダーを設置し、主体的・対話的に学び続ける「たんきゅう（探究・探求）の旅」を促す場とします。 ・未来をたんきゅう（探究・探求）することができるテーマを設定し、空間を囲むように様々な分類の関連図書を横断的に配架します。
みんなで つくる本棚	利用者自身がお気に入りの本や人にお勧めしたい本を配架することで、利用者同士での本の共有を通じ、新たな興味や知識の共有につなげていく場とします。
縁日コーナー	縁日のような遊びを通じて、偶発的な本との出会いを創出します。
ミュージアム みたいな 絵本コーナー	絵本の表紙を見せる並べ方をすることで、背表紙の字が読めないこどもたちも直感的に本を手にとることができ、大人にとっても絵本独特の世界を楽しめるミュージアムみたいな空間で、本を選ぶ楽しさを感じることができます。

2 イベント開催等の取組

(1) 読書イベントの開催（未来・図書館管理運営方針から抜粋）

ア こどもたちの読書へのきっかけづくりとする、おはなし会、映画会、人形劇、本の通帳（こどもに配布している読んだ本を記録する冊子）の配布等のほか、家族や友人と一緒に参加できる図書館クイズラリー（解答のヒントとして図書や厚木市の紹介を行いながらクイズに答えてもらい、図書館内をめぐる。）やこども読書マラソン（本の通帳への10冊記入ごとに60冊まで、6種類の景品を配布）等のイベントを実施します。

イ 未来館機能と連携したイベントや大人向けの読書イベントも実施します。

(2) 企画書架展示（未来・図書館管理運営方針から抜粋）

ア 季節や時事の話題に応じたテーマの展示を実施します。

イ 庁内各部署と連携し、市の取組やイベントなども紹介します。

(3) 検討事項

ア 読書イベントについては、未来・図書館窓口等委託事業者への委託業務となることから、今後、事業者からの企画提案を基に協議を行い、年間の事業計画を策定します。

イ 読書のきっかけづくりと来館促進を目的に実施している、読書通帳のアップデートについて検討を進めています。

(ア) 現状

読んだ本を記録することができる通帳については、読書のきっかけづくりや図書館の利用促進を図ることを目的に作成しており、現在、読書通帳と本の通帳の2種類があります。読書通帳については、図書館の窓口等で希望される方に配布し、広く市民の皆様に御利用いただいています。また、本の通帳につきましても、こどもの読書活動を推進するための読書マラソン事業（小学生以下のこどもたちを対象に、読んだ本を通帳に記録し、記録した本が10冊たまるとに、あゆコロちゃんのミニノートや缶バッジ、ハンドタオルなどをプレゼントしています。）で使用しています。

(イ) アンケート結果

別紙（4～7ページ）のとおり

(ウ) 今後の方向性

未来・図書館では、来館促進を図るための機能を新たに設置するとともに、読書や来館のきっかけづくりを視点に読書イベント等を充実することとしています。また、アンケートでは、図書館で借りた本以外の記録を残したいといったニーズや記録したい情報として、読み始めた日、評価、感想のニーズが高い結果でありました。

全国の自治体の読書通帳の取組を確認したところ、本市が採用している利用者自らが書き入れる形態のほか、シール等を手帳に貼り付ける形態、読書通帳機で通帳に印字する形態がありました。

アンケート結果を踏まえた形態を検討した結果、利用者自らが書き入れる形態が最もふさわしいことから、引き続き、同形態を採用することとし、アンケートで把握することができた記録したい情報を記載することができる通帳にアップデートすることとします。

読書記録に関するアンケート結果

1 調査の背景と目的

現在、本市で取り組んでいる読書通帳のアップデートに向け、読書記録の具体的なニーズ、記録したい情報の範囲、記録媒体等について実態を把握するため、図書館利用者を対象にアンケート調査を実施した。

2 実施期間

令和8年6月9日（火）～7月20日（月）

3 対象

厚木市立図書館利用者（中央図書館・公民館図書室・移動図書館）848人
（10代：196人、20代～40代138人、50・60代：264人、70代以上：236人）

4 調査結果の概要

(1) 読書記録に対する関心（設問：読んだ本の記録を残したいと思いますか。）

74%の人が読書の記録を残したいと回答しており、読書記録への関心は極めて高い結果であった。

(2) 記録を残したい対象の本（設問：どのような本の記録を残したいですか。）

84%の人が図書館で借りた本を記録したいと回答している。一方、59%の人が図書館で借りた本以外の本を記録したいと回答しており、記録を残したい対象の本は、様々であるという結果であった。

なお、10代の回答では、45%の人が図書館で借りた本を、24%の人が学校で借りた本を記録したいという回答であった。

(3) 記録したい情報（設問：書名と著者名以外にどんな情報を記録したいですか。）

記録したい情報として、「読み始めた日」、「評価」、「感想」のニーズが高い結果であった。一方で、付加価値として想定した「書籍の価格」に対するニーズは低い結果であった。

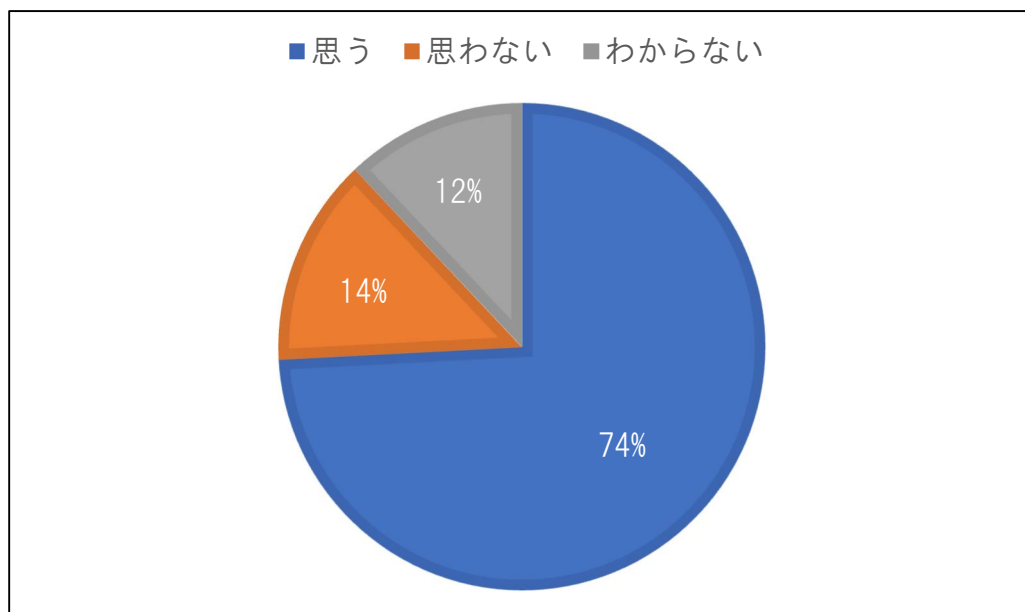
(4) 記録媒体（設問：読書記録をつけている方法や媒体は。）

記録をつけている人のうち、43%の人が「ノートや手帳に記録している。」また、36%の人が「PCやスマートフォンなどの媒体で記録している。」と回答しており、アナログな自筆記録への親和性が高い結果であった。

また、記録への関心がない14%に対し、39%の「人が記録をつけたことがない。」と回答しており、記録への関心はあるが、記録をつけたことがない人がいることが推察される。

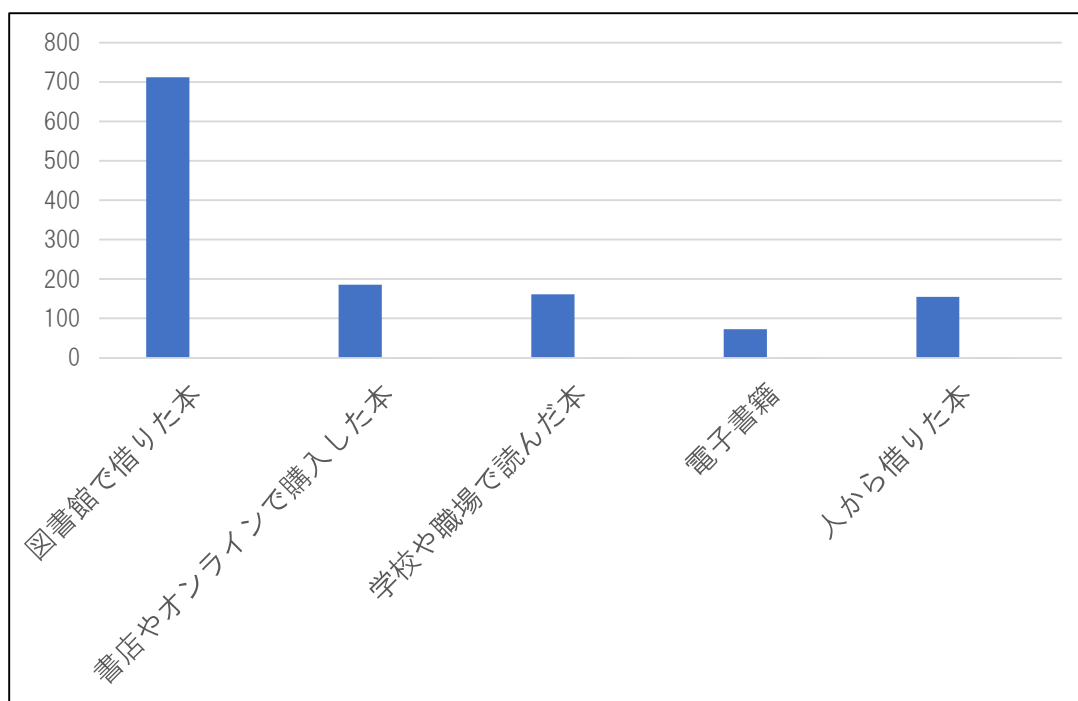
なお、10代の回答では、92%の人がノート等に手書きで記録しているという回答であった。

1 読んだ本の記録を残したいと思いますか？



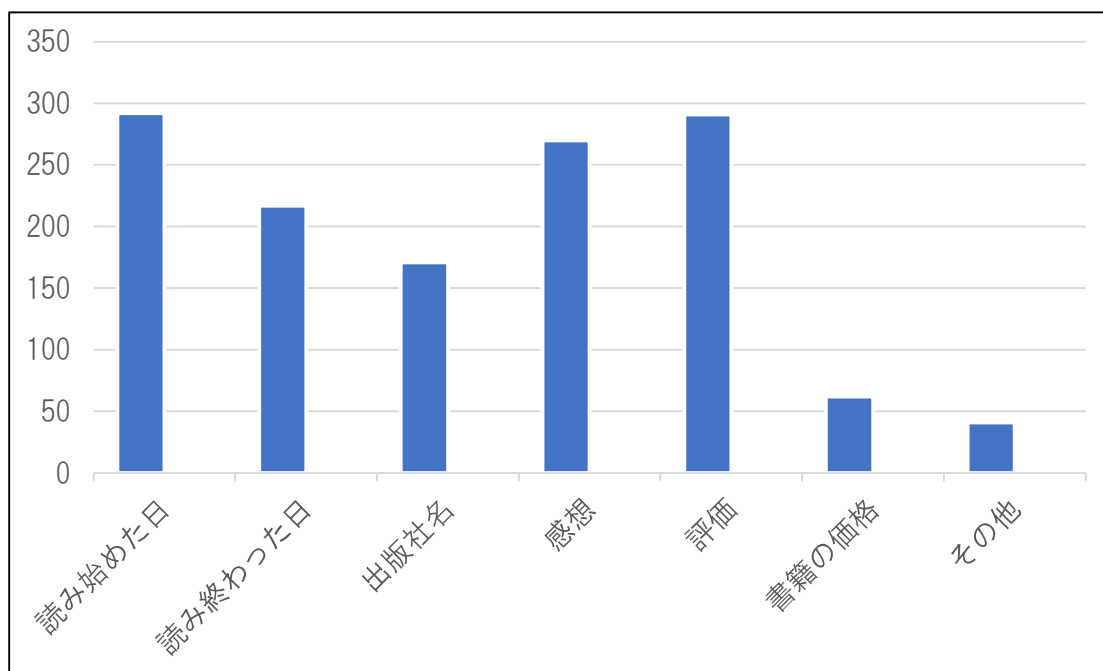
- ・ 74%の人が記録を残したいと思っている。
- ・ 10代の回答では、62%の人が記録を残したいと思っている。

2 どのような本の記録を残したいですか？（複数回答）



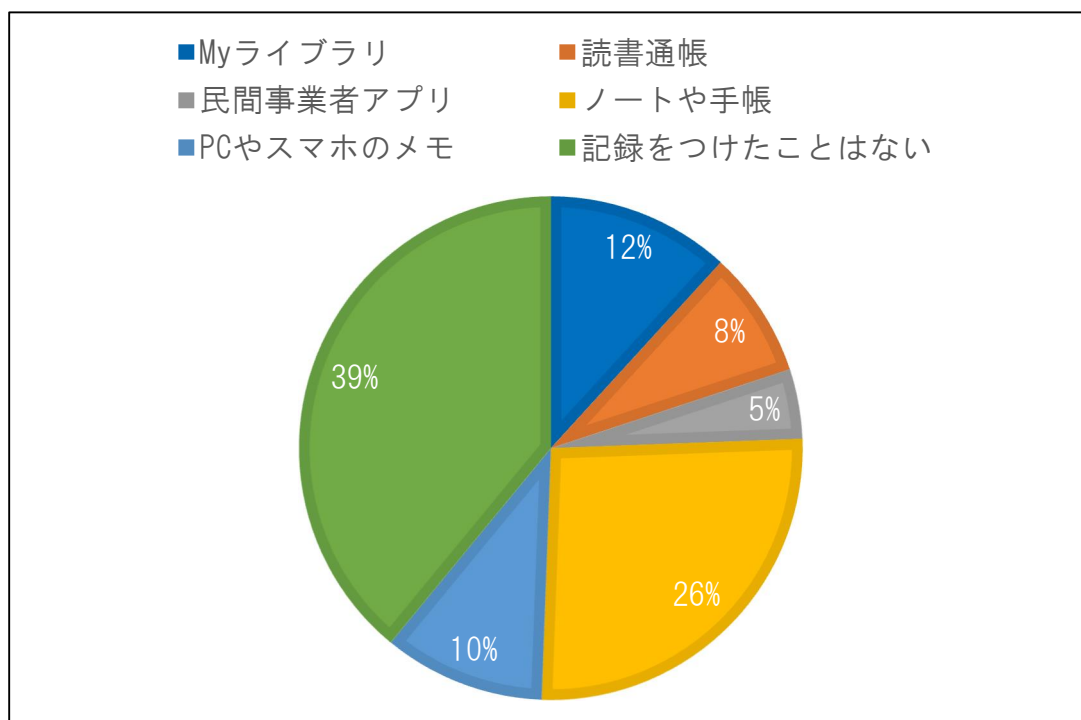
- ・ 84%の人が図書館で借りた本を記録したいと思っている。一方、59%の人が図書館で借りた本以外の本を記録したいと思っている。
- ・ 10代の回答では、45%の人が図書館で借りた本を、24%の人が学校で借りた本を記録したいと思っている。

3 書名と著者名以外にどんな情報を記録したいですか？



- ・記録したい情報として、読み始めた日、評価、感想のニーズが高くなっている。

4 読書記録をつけている方法や媒体は？



- ・記録をつけている人のうち、43%の人がノートや手帳に記録している。また、36%の人がPCやスマートフォンなどの媒体で記録している。
- ・39%の人が記録をつけたことがない。

5 年齢

